



編集・発行 山見妙勢能 山見妙勢能
日蓮宗 報部
〒563-0132
大阪府豊能郡野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

寝かせて待つ

日 慧

能勢妙見山で、献稻祭という行事がありました。

今年収穫された新米を、仏祖並びに妙見様や各お堂にお供えします。根が付いたままの稲穂をご宝前に供え、読経唱題して豊穰を祝い感謝して、世界の平和と人々の幸福を祈ります。

この稲穂はその年選ばれたお二人の献納者により捧げられます。春の種蒔きから夏の草取り等々と、丹精込めて育て上げるのです。

農事に疎い私ですが、仏神に捧げる稲穂を育てるのは、大変なご苦労があることと察します。雨が少なければ水やりに気を配り、逆

に雨が降り続けば無事に生育するかと、気の休まる間もないのではと愚考します。

この行事、九月十七日に執り行っているのですが、以前は十月十七日に行っていました。ひと月早くなつたのは、稲の生育が早くなつたためです。十月には実が落ちてしまうのです。

昔は十月に実りの秋を迎えたのですが、今は九月半ばに稲刈りが大方終わります。最近は更に早くなり、献稻祭をもっと早めないと稲穂がなくなってしまうかねないとも聞きます。

早くもつと早く、と私たちは動いてきました。仕事の連絡も、かつては手紙か電話だったのが、今は電子メールやSNSで、

時間を気にせず送信できるようにになりました。私も夜中に送ってしまったことがありません。しかし受け取った方は夜中であっても気になります。すぐ処理し返信が来ます。結果はお互いに時間を奪い合ことになるというのが今の社会状況です。

早く済ませて空けた時間を楽しむのではなく、逆に仕事が増えるのでは、息づく間もなくなります。「寝かせ時」ではないでしょうか。

《法華經に学ぶ現代》

能く一切の

生死の縛を

解かしめ

たもう

『薬王菩薩本事品第二十三』

生まれてきたら

死ぬことは

誰もが知ってるつもりでも

ついつい日頃は

それでもいいとは思うけど

たまには死とも

向き合って

じっくり人生考えよう

仏の教えは

そんな時

きっと身近に

なるだろう

【10月の主な行事】

- ★月例祈願法要 15日(木)13時
- ★鷗様月例祭 22日(木)15時
- ★写経会・清掃の日 星嶺演奏会・星嶺茶論
- ※ご祈祷・ご回向・兜矢等のお申し込みは、窓口の他郵便・FAX・メールでも受付しております

【11月の行事予定】

- ★七五三詣祈祷 1日〜30日
- ◎お子様の成長を祈って、11月中ご祈祷いたします
- ※祈祷札の他記念品を贈呈
- ※祈志納料 3500円
- ☆宗祖日蓮聖人御会式法要 14日(土)〜15日(日)
- ★月例祈願法要 15日(日)13時
- ★鷗様月例祭 22日(日)15時
- ★写経会・清掃の日ならびに星嶺演奏会・星嶺茶論は中止
- ※出会いの鐘巡りは「ひらがなあつめ」に代えて実施中
- ※登山カールド押印は中止
- ※法要など昇堂の時はマスク・人数制限等、感染の拡大防止にご協力をお願い申し上げます
- ※社会情勢により予定は変更することもあります
- ※送迎車の運行は、当面見合わせています

御馳走

服部憲厚

妻が妊娠した。待望の第一子。毎日飛び上がって喜ぶ私の横で、妻は出産に向けての準備に余念がない。

ある日、妻が真剣にメモ帳に何かを書き留めていたので覗いて見た。準備物のリストかと思いきや、そこには「出産までに行きたいお店のリスト」が列挙されていたのである。

なるほど、確かに出産の後では夫婦でゆっくり食事を楽しむ時間も限られる。というわけで、夫婦二人、暇を見つけてはリストのお店を風潰しに東奔西走し、御馳走に耽った。

名店のフレンチは美味だった。知る人ぞ知る天婦羅屋はサクサク。老舗和菓子屋のスイーツには唸った。そうして、妻も私もお腹がすくおぼろ大さくなり、外食を控えるようになった

頃、近所でウーバーイーツが走り始めたのである。

この今流行りの宅配サービスは、スマホ一つで手軽に様々なお店の御馳走を、我が家に届けてくれた。

そして、妊婦検診の日。妻が肩を落として病院から帰ってきたのである。

お医者様から「御馳走を食べ過ぎたのかな？体重が増えすぎると出産のリスクが高まりますよ！」と小言を言われたのだとか。

私の母は「昔は体重制限なんてなかったよ」と心配したが、最近では、昔に比べ妊婦の体重制限がとてもしっかりしている。

きっと昔より、体重が増えすぎて、リスクを負う妊婦さんが多いのだろう。今はそれほど御馳走が世に溢れている。妊婦に限らず老若男女が栄養過多という人類史上経験したことのない時代。恵まれ過ぎた環境は、私たちの「食」への

75歳以上の後期高齢者は一定の運動を続けられないと約1週間で脚が弱り、いざ動こうとしても5分ほどで限界が来てしまう（読売新聞9月16日夕刊）という記事を読んで驚いた。たった1週間で退化してしまうとは。□□ナ禍の中、外出する機会が減り、運動量の

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

減った人も少なくないだろう。しかし考えれば運動だけではない。歌舞・学問、何にしても日々の修練を怠っては力を保つことはできない。信仰も同様、気を抜いては仏との距離が遠ざかってしまう。□□ナ禍にあっても、続けるべきものは続けていきたい。

K.J

俳壇

（みのり）

菊の庭木椅子は老の社交場

紅葉照る風を通せる庭広し

間引き菜を漬けたる桶の小さかり

鳥を呼ぶかに庭の実南天

新築の家の樋音秋天高し

法華経茶話Ⅱ

ヒンドゥー教の台頭

一方、祭儀のために牛を殺していたバラモン教団は、殺生禁断の仏教教団によって糾弾され都市から地方へ追われました。しかし彼らは、この失敗に学んで牛殺しをやめ、シヴァやヴィシヌといった大衆的な神を、ただ無条件に信仰すれば救われると説いたのです。こうして、バラモン教は再び都市部で人気を集め、ヒンドゥー教と呼ばれるようになります。このヒンドゥー教の復活は、インテリ層を中心に信仰を集めていた仏教教団に動揺を与えました。何故なら、仏教はその日を生きていくだけで精一杯の下層階級の人々にとっては、あまりに難解だったからです。このヒンドゥー教の勢いに対して、仏教教団の過激派とも呼ぶべき僧侶が対抗策を考え始めました。こうして誕生したのが大乘仏教です。